



恭賀新年

色彩の融合 行く秋も永源寺を訪ねて

情報紙 第112号 2024年 1月 1日

編集・発行：永源寺地区まちづくり協議会 東近江市山上町 1316 番地 永源寺コミュニティセンター内 IP：050-5802-9336 http://members.e-omi.ne.jp/e-net6500/ E-mail：e-net6500@e-omi.ne.jp



世界糖尿病デーのシンボルカラーである青色に染まる方丈 11月14日



こころ染みる美しき永源寺 こころ滅入る愛知川の濁り 11月24日



鮮やかな紅葉を撮る観光客 11月22日



ライトアップされた境内 11月18日



地元地域の皆さんにより参道などに灯籠がともされる 11月18日



方丈で「はなちゃんず」のよし 11月24日、NHK「おはよう日本」で永源寺の紅葉が放送される 笛のライブ 11月18日

編・集・後・記
●新年あけましておめでとございます。本年もよろしくお願ひします。●私事ですが、昨年4月から仕事の都合で愛知県に単身赴任しています。週末は地元自治会やまち協の行事などがあり、自宅に帰ってきています。大学から就職、結婚した時は大阪に住んでいましたが、その後、永源寺にUターンしましたので、約30年ぶりに永源寺以外の地で平日を過ごしています。生活するうえで、その地域の「良さ」がありますが、赴任先で真っ先に実感したことは、「横断歩道に人が居ると自動車が行止まる」という、当たり前のことを普通に行われていないことです。寂しいことですが、永源寺では、横断歩道を渡るうしろしたとき、歩行者の存在を自視していても止まってくれないドライバーを多く見受けられます。些細なことですが、歩行者(交通弱者)を守る気持ちですが、安全・安心のまちづくりにつながると思います。●一方、赴任先はJR線が名古屋まで20分程度の地域で、住宅と商業が入り混じったところ。一見、買い物も交通の便も良いところのように見えますが、物価は永源寺(東近江)と大きな差はなく、交通の便も日常的な渋滞で自動車は使い辛い状況です。むしろ、自然と文化があり、少し時間をかければ西は京都・大阪に、東は名古屋に行くことができる永源寺は、大変住みよい地域であると思います。単身赴任をきっかけに、永源寺の良さを再認識したことです。●ハード面での改善は行政にお任せして、ソフト面でもさらに安全・安心、住みよい永源寺になるように心掛けていきたいです。まずは、この情報紙から安全・安心なまちづくりに役に立つような情報を発信し、永源寺の良さを守るために、特に防災面から役に立てるよう、できることから少しずつ進めていきたいと思ひます。(S.Y.C)

こんにちは**保健師**です ⑱

「生活習慣の改善で  
認知症を遠ざけよう！」



記憶をつかさどる脳の「海馬」という部分へ酸素を届けるのは血液です。脳の血管を良い状態にして十分な酸素や栄養を届けることが認知症の予防につながります。

そのためには①食生活 ②運動習慣 ③口腔ケア ④禁煙 ⑤飲酒 ⑥睡眠 ⑦生活習慣病の見直しが大切です。今回は③口腔ケア④禁煙についてお知らせします。

【口腔ケア】

食生活を充実させるためにも、毎食後の歯みがきや入れ歯の手入れは欠かせず、定期的に歯科健診に行きましょう。

また、人と話したり、かみごたえのあるものを食べたりして、口をよく動かすことで、口腔機能は向上し、脳の活性化にも役立ちます。

【禁煙】

たばこを吸う人は吸わない人より、また、たばこの本数が多いほど認知症になりやすいとされています。

禁煙はいつから始めても効果があるので、身体が衰えてくる高齢者こそ禁煙に挑戦しましょう。自分だけで禁煙するのが難しい人は禁煙外来や禁煙補助剤など活用しましょう。

市内の禁煙外来がわからない場合は、永源寺支所保健師の窓口までご相談ください。

永源寺地域が登場する本・雑誌

永源寺図書館提供

『緑と水辺のごちそうドライブ関西版』

ぴあ株式会社 関西支社

関西にある様々な緑あふれる癒しの空間を紹介した本。表紙は、地元永源寺にある愛知川を見下ろす絶景のテラス席で美味しいピザが味わえる「PIZZERIA魚幸商店」。お店のデッキや家具、ピザ窯もオーナー手作りだそう。

ほかにも、石窯パンが楽しめる「つむぎ」や、新鮮な牛乳で、できたてジェラートを味わえる「池田牧場」、日本ワインとパンの店「ヒトミワイナリー」が紹介されています。



『歌わないキビタキ 山庭の自然誌』

梨木香歩／著 朝日新聞出版

ハヶ岳の山小屋で目にする鳥や植物たちの姿、そして東京の家での日常。作家・梨木香歩が、心の琴線に触れた物事を深い思索とともに綴ったエッセイです。自分自身の病のこと、そして親戚や母親の認知症のことなど、困難の中に気づきを見出す著者の言葉は、静かに胸に染み入ります。

本の中で、2022年に著者が政所を訪れ、地域の人々と交流した様子も記されています。政所茶、おくとさんと炊いたお米、そして梅干しの美味しさなどの描写から、著者が政所とここに住む人々に寄せるあたたかな思いが伝わってきます。



まちの話題



飛び出し坊や生誕 50 年  
久田泰平さん、社会功労表彰を受賞



市内でお馴染みの飛び出し坊や「とび太くん」が誕生して 50 年。飛び出し坊やの生みの親である久田泰平さんが、11 月 3 日の市政功労者表彰式で社会功労表彰を受賞されました。

飛び出し坊やは、高度成長期で交通量が急増し交通事故が多発していたことから、子どもの飛び出し事故を防ぐ啓発のため、当時の八日市社会福祉協議会からの依頼を受けて誕生しました。相談を受け考案、製作した久田さんは、子どもたちの交通安全を願って今も続けられており、今日では飛び出し坊や発祥の地としてマスコミ等にも取り上げられるほど本市の知名度向上に貢献されています。

地場産の野菜にもっと興味を  
中学生議員が熱く政策提案



中学生が市の執行部に一般質問をする中学生議会が 11 月 12 日、市役所の議場で行われました。

永源寺中学校からは、2 年生の河合凜花さん、吉澤明花さん、中村伊緒理さんが参加。中学生議員として「地域の野菜をもっと広めるために」をテーマに 3 人で調査研究をされ、議場では代表の吉澤さんが政策提案されました。

吉澤さんは、「市役所駐車場で定期的にマルシェを開催することで、野菜のおいしさを知ってもらおう」「中高生がケーブルテレビで情報を発信し、若者に地場産の野菜に興味を持ってもらう」などの取り組みについて提案されました。

避難所の運営・設営について学ぶ  
コミュニティ防災講座



10 月 7 日、永源寺コミュニティセンターで、防災講座が開催されました。3 回目となる今回は、「実際に体験をしてみよう」をテーマに、市の防災危機管理課の職員から避難所運営と設営について学ばれました。

この日の講座では、まず避難所設営についての説明や留意点の説明があった後、総合受付の方法、プライバシーテントの設営、簡易パイプベッドの組み立てについて、参加者が交替で体験されました。また、最後に備蓄用食料の試食も行われました。

参加された方からは、「いろんな体験ができて良かった」、「改めて防災を考える機会になった」などの感想を述べられていました。

観光や空き家をテーマに  
市長とまちづくり懇談会



10 月 12 日、永源寺コミュニティセンターで、まちづくり懇談会が開催されました。

市からは、市長、副市長、担当部長らが出席され、自治会連合会、まちづくり協議会の各役員との間で活発な意見の交換が行われました。「東近江市エコツアーリズム推進全体構想」、「空き家対策」、「観光地・永源寺の市の構想」の 3 つのテーマについて、市からの説明や提案があり、出席者からは地域が潤うようになってほしいという意見や、空き家を民家として利用できないか、倒壊の恐れのある建物の処理についての質問が出されていました。

市長からは、「居心地の良いまちづくりに一層努力します」との言葉がありました。

はっ ぷう  
八風の湯

永源寺温泉

ご予約は

イイフロ

0748-27-1126

<https://www.happuno-yu.com/eigenji/> 八風の湯





合併してもうすぐ20年 東近江市のいいところ発見しよう!

# 湖辺の郷伊庭の景観めぐりと 整備された布引の森を散策



ガイドの方から大濱神社と仁王堂の説明を聞く

まちづくり協議会の歴史探訪  
研修事業で、10月18日に能登川  
地区の伊庭の水辺景観と国道3  
07号沿いにある布引の森を訪  
れました。  
伊庭の水辺景観は、「琵琶湖と  
その水辺景観―祈りと暮らしの  
水遺産」として平成27年に日本  
遺産に認定されています。湖辺  
の郷伊庭では、おもてなしガイ  
ドの方から地域の歴史文化や魅  
力を詳しく説明していただき、  
参加者は湖辺ならではの生活や  
その史実に聞き入っていました。  
当日は天気も良く、約2時



季節を感じながら整備された散策道を歩く

間の基本コースを気持ちよく回  
ることができました。心地よい  
汗をかいた後は、地元料理店  
の昼食をいただきました。  
午後からは、東近江市が整備  
した布引の森で担当者から説明  
を受けたあと、起伏に富んだ大  
回り(1200メートル)・小回  
り(900メートル)の遊歩道を  
それぞれの体力に合わせて散策  
しました。里山の遊歩道は、四  
季折々の景色を楽しむことがで  
き、毎日散策される方もおられ  
ることです。  
普段はなかなか訪れること  
のない所へ行くことで、新たな発  
見の多い有意義な一日を過ごす  
ことができました。

# クローズ アップ☆

# 政所の魅力たっぷり イチョウの木の下でまつり開催



イチョウ落葉で黄色く染まる境内でのイベント

政所町の光徳寺にある高さ約  
15メートル、幹周り直径約4メ  
ートル、樹齢250年と伝わる  
イチョウの巨木が黄金色に輝い  
た11月11・12日の両日、寺周辺  
で「政所イチョウまつり」が、  
初めて開催されました。  
政所町は、以前130軒ほど  
が暮らす大きな集落でしたが、  
現在は約50軒と過疎化が進み、  
空き家も増え、集落の課題とな  
っています。  
危機感を持たれた地域住民の  
方々が、歴史豊かな政所の郷や  
有名な政所茶、美しい自然や温

かい人とのつながりなど、地域の  
魅力をもっと広く知ってもらい、  
定住する人や地域外から移住す  
る人が増えればと、実行委員会  
(渋谷廣正委員長)を立ち上げ、  
祭りを開催されました。  
会場では、政所茶生産振興会に  
よる政所茶のおもてなしをはじめ  
め、木工製品の展示販売や住民手  
づくりのちらし寿司、かやくこ  
飯、こんにゃく料理などを販売し  
て地域の魅力をアピールされま  
した。  
イチョウの落葉で一面黄色い  
絨毯(じゅうたん)と化した境内  
では、けん玉のパフォーマンスが  
披露され、見事な技に見物客から  
大きな拍手が送られました。ま  
た、初心者向けの指導もあり、子  
どもたちは真剣な表情でチャレ  
ンジしていました。  
本堂では、古典文学を研究され  
ている奈良市在住の書家、堀井幸  
子さんが「知っておきたい源氏物  
語」をテーマに、源氏物語絵巻の  
読み解き方をお話しされ、参加者  
は1千年前のロマンに思いを馳  
せていました。  
会場には気軽に定住や移住に  
ついて相談できるコーナーも設  
けられ、担当者から話を聞く来場  
者の姿も見られました。

## 魅力ある愛知川に

# ビワマスの遡上を願って 渋川えん堤に魚道を設置

産卵のために琵琶湖から遡  
上するビワマスの簡易魚道づ  
くりが10月21日、渋川で実施  
されました。  
ビワマスは琵琶湖の固有種  
で、冬に河川で孵化(ふか)し  
た稚魚が初夏に琵琶湖にもど  
り、3・4年後の秋に生まれた  
河川を遡上して産卵し、生涯を  
終えると言われています。  
魚道づくりは、愛知川漁業協  
同組合が3年前から取り組ん  
でいる活動で、ビワマスが高さ  
2・5メートルの砂防えん堤を  
乗り越えられるように単管パ  
イプやポリエチレン管、プラス  
チック製のU字溝を組み合わ  
せて設置されます。



えん堤に魚道をつくる参加者

昨年設置された魚道を遡  
上したビワマスが産卵して、数  
千匹の稚魚が育ったそうです。  
今年も同組合員やビワマス  
に関心のある人など約50人の  
ボランティアが参加され、遡上  
しやすい勾配に流れを調整し  
たり、魚道にたまり場を作る板  
を等間隔にはめ込んだりしな  
がら、全長25メートルの魚道  
を完成させました。  
同漁協組合長の村山邦博さ  
んは「来年初夏に無事孵化した  
たくさん稚魚が、この川から  
琵琶湖を目指して旅立つ姿を  
見るのが楽しみです。このよう  
な活動を通して愛知川の魅力  
をもっと多くの人に知ってい  
ただきたい」と話されました。



知って得する  
豆知識

## ダム右岸でムラサキシキブと出会う

今年の大河ドラマ「光る君へ」は、平安時代中期に、のちに世界最古の長編小説といわれる「源氏物語」の作者、紫式部の人生を描いたドラマだそうです。  
ところで、ムラサキシキブという花があるのはご存知でしたか。ムラサキシキブは、シソ科の落葉低木で日本各地の林などに自生し、紫色の果実が美しく鑑賞用にも栽培されているそうです。花言葉「愛され上手」は、源氏物語の主人公であり、美貌と才能に恵まれ多くの女性に愛された「光源氏」が由来とのこと。  
永源寺ダム右岸で今まさに綺麗な実を付けているとの情報を得て、カメラに収めてきました。このような新たな出会いに感謝しています。(11月11日撮影)

農事組合法人 やまあいの里

# 永源寺そば

東近江市山上町 123  
TEL/FAX0748-27-2133  
営業時間 平日 11:00~15:00  
土・日・祝 11:00~16:00  
定休日 毎週月・木曜日



蕎麦のこだわり。

地域で栽培された有機、無農薬の蕎麦を使い、こだわりの手打ちそばに仕上げました。地元の食材をふんだんに活用した永源寺そばを是非ご賞味ください。



# まちの話題



## 4年ぶりに開催「田舎de縁結び」 永源寺で座禅体験など交流深める



4年ぶりに結婚支援事業「田舎de縁結び」を10月22日に開催しました。今回は、大本山永源寺をメイン会場とすることで、永源寺地域に興味や関心を持っていただきたいという願いもありました。当日は永源寺コミュニティセンターで自己紹介とゲームを楽しみ、その後大本山永源寺に移動し、お寺の方から「縁」についての法話を聞いたり、座禅体験などで交流を深め、和やかな雰囲気となりました。女性が定員の半数しか集まらず物足りなさが残ったかと思いますが、そんな中でもひと組が成立し、うれしい結果となりました。今回、40歳前後の若いスタッフが実行委員会に参加され、情報発信や交流内容など、柔軟で活発な意見を出していただけことが成果のひとつでもあります。

## 彦根から永源寺までの30km 彦根藩主が歩いた高野道を辿る



おいでえ高野主催の彦根藩ゆかりの古道を往く「第6回高野道を辿って」が10月27日に開催されました。これは永源寺の境内にある第四代彦根藩主「井伊直興公」の霊廟にお参りするために、歴代の藩主が彦根から永源寺まで歩いたといわれる高野道を訪ねたものです。参加者20人は彦根城の井伊直弼公の像の前を午前8時に出発。高宮、甲良、愛荘を経て永源寺へと続くおよそ30kmの道のりを辻々にある道標を確認しながら午後4時、高野自治会館前に到着しました。普段は道端にひっそりと佇む道標もこの日はばかりは多くの人々の目に触れることができ、また参加者も井伊の殿様に思いを馳せながら古道を歩き達成感を味わった一日となりました。

# みんなの ふるさと祭り

秋恒例のみんなのふるさと祭りが、11月12日、永源寺コミュニティセンターで行われました。館内では、子どもたちや文化サークルの作品展示やものづくり体験、お茶席、ダンスサークル、腹話術などのアトラクションが行われました。屋外では、ちびっこ消防車や地元野菜などの販売、キッチンカーの出店もあり、大勢の来場者で賑わいました。



キッズダンス KAERU のパフォーマンス ニッサン堂の腹話術 近江和太鼓団巴 UZUMAKI



ちびっこ消防車 けん玉体験 マジックショー



ものづくり体験 手話体験 お茶席作法



文化団体発表 文化団体作品展示 子どもたちの作品展示 バジチェック



地元野菜の販売 商工会のバザー キッチンカーニバル 不要品譲渡会

## 歌とピアノの演奏に愉しむ今宵 良い夜い(よいよい)コンサート



11月11日、永源寺図書館で恒例の良い夜いコンサートが開かれました。コンサート前半は、地元の小中学生や高校生、音楽愛好家によるピアノやギター、コーラスの演奏がありました。後半では、歌とピアノのユニット「pomUmeR(ポムメール)」さんによる歌とピアノの演奏が披露されました。ミュージカル「レ・ミゼラブル」「キャッツ」などの楽曲や、ディズニー作品、ジブリ作品など、馴染みのある曲を披露され、会場は和やかな雰囲気になりました。

## 永源寺って、こんなに凄いですよ！ 永源寺中学校で地域学習講座



地域の中学生に永源寺の良さを知ってもらおうと、10月19日、永源寺中学校で1年生を対象にコミュニティセンター主催の地域学習講座が行われました。講師の元永源寺町史を担当された西村和恭さんからは、日本一美しいと称された永源寺の紅葉や大勢の人で賑わっていた愛知川のアユ釣り、実現しなかったものの永源寺まで鉄道延長の計画があったこと、まちが揺れた永源寺ダム建設など、ふるさとの歩みを話されました。最後に中学校の変遷と来年度から予定されている校舎の大規模改修計画にも話が及ぶと、生徒たちは興味津々で聞き入っていました。